

# 厚労省新オレンジプラン “認知症カフェ” の運営

NPO法人 城南健康ふれあい倶楽部  
〒830-0023 福岡県久留米市中央町 3 5 - 1

## 助成事業の概要

☆認知症カフェの運営充実とモデル事業所の視察研究

### 目的：

全国の先駆的に取り組んでいる“認知症カフェ”の運営団体及び行政を訪問し、運営上での相互の課題検討及び情報交換を行い、モデル認知症カフェの在り方及び運営を目指している。

### 時期：

平成 27 年 6 月～平成 28 年 2 月までに実態調査と報告会を経てその結果をまとめる

### 内容：

- 先駆的と言われる京都地区の視察調査(6月末)
- 認知症対策総本山の厚労省・東京都等の行政への訪問及び東京都内・千葉の 8 ケ所の運営団体を訪問
- 九州地区の運営団体及び行政の訪問
- 認知症カフェ交流会（福岡県内）を開催：県内の運営団体や行政を対象に調査事業の報告会を実施

## 事業の成果

2 年間の認知症カフェ運営とこの実践研究により、下記が成果と考えています。

1. 京都地区 3 日間の調査研究のまとめ（別紙参照）

- 先駆者であり認知症カフェハンドブック著者の武地先生と交流会・運営団体・個別面談が実現
- 京都地区の“認知症カフェ”セミナーに参加させて頂き、当事者家族 3 組の生の声を拝聴した
- 7つの運営団体を訪問し、行政含めた現状の取り組み、運営の課題が別紙の通り整理できました

2. 東京地区 3 日間の調査研究のまとめ（別紙参照）

- 厚労省・東京都・港区の窓口と面談が叶い、東京都⇒各区の積極的展開が大変参考になりました
- 運営もNPO・任意団体を主体に訪問し、5 団体とは相互の交流会が実現し課題が浮き彫りになった

3. 九州地区の 3 件の訪問により京都・東京地区と含め、認知症カフェの現状把握ができました

4. その結果、2/7 に福岡県・久留米市の後援で福岡県内の認知症カフェ交流会を主催して開催する事に繋がり、県内の運営者及び検討している団体に参考になる交流会となりました（別紙参照）

5. 昨年 10 月には朝日新聞社主催の“認知症カフェ開設講座”にて、6 月末に訪問した京都の武地先生の推薦を受けて、事例発表の機会を頂き 2/7 の認知症カフェ交流会の布石にもなりました

6. 昨年 12 月には、上記調査研究を踏まえ“ほっとカフェ”の運営に大きく寄与すると共に福岡県

の“ふくおか共助社会づくり表彰”にて久留米市始め13団体との連携の協働事業での取組が評価され、県知事表彰を受賞しました

7. この1年間で、福岡県内の認知症カフェ事業に取り組みたい団体や実施している団体12団体76名が見学視察に来られた（昨年12月には韓国ソウルの認知症医療センター14名、福岡市内の民生委員の団体27名、地域の女性の会16名、大学生6名他県内の各福祉法人）

この調査研究により、“ほっとカフェ”の4つの特長 ①平日毎日運営 ②楽しく笑顔のプログラム③17団体約50名の支援体制 ④月会費2,500円の受益者負担の運営が評価を頂き、福岡県内から全国への発信に繋がることになり、貴団体の助成事業に大変感謝をすると共に、全国モデル版の構築に向けて更なる運営強化を図っていきたいと考えています

## 成果の広報・公表

### 【認知症カフェの2段階の棲み分け】

1) 認知症支援カフェ：初期・中度のご本人やご家族を対象とした医師や介護事業者が運営のカフェ

2) 認知症予防カフェ：初期・軽度（予備群）・心配で不安な家族を中心としたNPO等が運営のカフェ

※認知症カフェは、健常者から介護事業所利用までの空白期間を過ごす居場所として必要不可欠な場所である事を確信し、予防を前面に打出すことにより、初期・軽度の方やご家族が参加され易く進行防止・早期発見・予防にも貢献する事が解ってきた。

### 【認知症カフェ運営の6つの課題と対策】

1) 基本プログラム：継続の為には楽しい笑顔の

プログラムが必要

①楽しい脳トレ ②リズム体操・軽運動 ③専門家のお話 ④おしゃべり（カフェ）タイム

2) 運営者：NPOや任意団体で行う方が、地域密着となり開放的で支援者も増え資金的支援も得やすく円滑な運営が可能となる

3) 開催場所：一般市民が気軽に立ち寄れる場所（古民家・商店街の空店舗等）で検討する

4) 支援体制：運営者がNPOや任意団体で、場所が開かれた場所であれば支援体制は広がる

5) 資金：利用者の受益者負担を原則にして、初期は助成金を活用しながら自立運営を目指す

6) 広報・集客：楽しい笑顔の基本プログラムや地域の支援体制をしっかりと構築する事から始める

## 今後の展開

この度の調査研究により、先駆的運営者や行政の対応を学ぶことが出来、全国的に定義がないこの認知症カフェが、運営上の課題が多くあり、ある意味で混乱状態である事を学びました。

そして2/7に開催した「認知症カフェ交流会」により、6つの課題の意見交換を通じて、前記の6つの課題と提案をまとめることができ、当ほっとカフェとしてモデル版づくりの布石が出来ました。

3年目になる28年度では、現在の運営を更に充実させながら特に①家族相談会 ②支援者やサポーターのスキルアップを行いながら、モデル版を目指して取組んで参ります。

この度、貴団体の助成金第2弾として地域ボランティアや専門学生の研修（2時間×3回）実施及びキャラバンメイト・一般サポーター養成講座受講者の積極的支援の輪を拡大しながら、まずは久留米地区～福岡県内での認知症カフェの普及拡大に寄与していければと考えています。

更なるご指導ご支援を宜しく申し上げます。